

日時 7月16日～17日

場所 遠軽町えんがる球技場

【U-11】監督：藤本哉 コーチ：蔦川明秀

【チームテーマ】

“ボールを奪う！” “ボールを失わない！” “ゴールを奪う！”

【試合結果】

①V S 釧路 (0-1 0-2) 0-3 ②V S 十勝 (0-0 0-2) 0-2
③V S 網走 (1-1 0-2) 1-3 ④V S 旭川B (1-0 1-5) 2-5
⑤V S 旭川A (0-4 0-4) 0-8

【チームテーマについて】

(1) ボールを奪う

・前日のミーティングで以下のことについて話し合った。

○守備の順序 (インターセプト⇒トラップ際⇒DFの基本姿勢⇒相手がボールを離れた瞬間)

○相手に体をぶつけてボールを奪う

・試合の序盤は硬さが見られインターセプトを狙えるポジションについていなかったが、徐々に試合が進むにつれて、相手の意図を読み、素早いアプローチからインターセプトやトラップ際でボールを奪う場面が見られるようになった。

・相手に体をぶつけることについて、まだ足だけでボールを奪いに行く場面や、体の使い方が悪く相手とポジションが入れ替わってしまう場面が見られた。

(2) ボールを失わない

・前日のトレーニングでボールコントロールを徹底的に取り組んだ。自分の外側1mに一回で置くことやトラップした足が一步目の足にすることで、素早いプレーができることを学んだ。

・スローインから味方の選手に一度当てて、リターンパスを相手DFラインの裏のスペースでボールを受ける動きを確認した。

・試合では、選手達は味方とコミュニケーションを取りながらパスをつなごうとチャレンジしていた。今後は成功率を上げていくことが課題と考える。

(3) ゴールを奪う

・手数を掛けずに、シンプルに縦への攻撃を意識することを最優先としながらも、マイボールだから横や後ろにボールを出すこともゴールを奪うためには必要な考えだと話し合い、積極的にチャレンジする場面が見られた。

【 U-12 】 監督：木村太一 コーチ：菅原則幸

チームテーマ

“ボールを奪う！” “ボールを失わない！” “ゴールを奪う！”

はじめに

初めての遠軽町への遠征で、宿泊先の確保に手間取り遠征費や行程表などのお知らせがぎりぎりとなってしまう、各チーム、保護者のみなさんには大変ご迷惑をおかけしました。

16日は、根室を5時50分に出発し、別海、中標津を経由し、11時30分に遠軽に到着しました。

到着時点では、小雨でしたが、テントを設営しアップに向かおうとしたところに、雷雨となり、大会本部より車両内での待機が伝えられました。

約1時間程度、待機しその間、大会本部で対戦時間の短縮など再開に向けての準備が行われていましたが、雷雨が止まず、翌日へ試合を繰り越し、対戦方法の変更が伝えられました。



根室は、初日、1試合もできませんでしたが、宿舎には体育館があるため、2時間たっぷりトレーニングを行いました。

17日は、15分—15分の前後半全員交代で5試合を連続で行いました。

えんがる球技場は素晴らしい人工芝ピッチが整備されており、前日からの大雨にも関わらず、良好なピッチ状態で試合ができました。

試合結果

- ① VS 釧路 (1-0 0-1) 1-1 ② VS 十勝 (1-1 0-2) 1-3
③ VS 網走 (0-2 0-1) 0-3 ④ VS 旭川B (3-0 0-4) 3-4
⑤ VS 旭川A (0-3 0-5) 0-8

1分け4敗でしたが、6年生主体の前半チームは2勝1分け2敗で、足が止まってしまった5試合目を除けば、しっかりと課題に取り組み、十分に成果を見せてくれたと思います。

(1) ボールを奪う

- ① ボール保持者の状況と受け手とのコミュニケーションを見てポジションを移動しておき、インターセプトを狙う準備をしておく。
- ② ボールが動き出した瞬間にインターセプトか相手のコントロールの瞬間を狙いに行くか判断をする。
- ③ 奪えなかった時の相手への制限と厳しいプレッシャーをかけること。
- ④ 相手とボールの間を奪うために体をぶつけ、ボールを奪う。
- ⑤ 奪ったボールを確実に味方ボールにする。(シュート、ドリブル、パスの選択)

それぞれの場面に応じた課題を持って試合に臨みました。

また、ファーストDFのアプローチに応じてカバーやマークの受け渡しなど、味方のポジションが変わることを見ておき、全員で守備をする意識を持つこと。全員がそれぞれのポジションに関わりを持ち、ボールを奪うDFを行うよう指示しました。

① ②は試合を追うごとに精度があがっていき、高い位置でのアプローチは相手のボールを奪い攻撃に転じたり、中盤でのインターセプトも多くみられました。

しかし、インターセプトの意識が強くてしまい、ポジション移行のタイミングが早すぎ、自分が移動したスペースにパスを通される場面もあり、一つのプレーだけに集中せずに複数の選択肢を常に持ち続けることと、セカンドDFが味方のアプローチをカバーする連動したプレーの中で、自分のマークを離してでもスペースをつぶすべきかの判断をするところが、次の課題になっていくかと思えます。

③・④は個人差が大きく出ていました。

全体的には、厳しいプレッシャーをかけ、ボールを奪う場面が増えてきているため、成果がみえていますが、個々のプレーでは、アプローチや制限の方向、体をぶつけるテクニックなど、DFの基礎的なトレーニングの取り組みの差が感じられました。

⑤は、意識的な面と技術的な面の両面がそろそろ必要があるため、今後、根室4種全体の課題として取り組みを検討していきたいと考えています。

(2) ボールを失わない

攻撃に移るには、上記(1)⑤からのプレーとアウトオブプレーから再開するプレーがほとんどです。前日のミーティングで選手の発案したスローインからの戦術をチームプレーに取り入れることとしたため、紹介します。

① スローワーからのボールが届く距離でできるだけ離れてポジションをとり、ボールを受ける。

② 相手が近づいてきた場合は、相手をブロックする。

③ ②からスローワーに近づき(相手を剥がす)ボールを受け、スローワーにリターンし、縦方向に相手の裏を取る位置に移動する。

④ タッチライン付近の選手以外の前線の選手は、ゴールを狙える位置に移動する。

⑤ リターンを受けたら、縦方向にパスを出すかゴール前にパスをだすか選択をする。

⑥ 縦方向でパスを受けた選手は、センタリングを上げる。

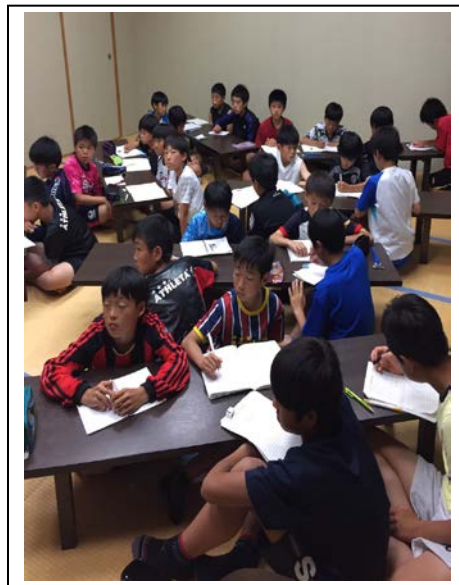
選手たちで考えた戦術です。その他にも何パターンか提案がありましたが、今回の大会は上記を採用することとし、何度か成功していました。

③までは、かなりの回数をトライしていましたが、①にある「できるだけ離れてポジションをとる」ところのスローワーと受け手の距離感がうまく合わず、相手のプレッシャーを受けるか、正確なダイレクトパスができずパスミスしラインアウトすることが多く発生していました。

何度か練習すると改善できるものだと思います。選手が考えた戦術で得点に結び付けられれば、達成感も大きいと思いますので、選手たちに考えさせ、プレーさせるといふ部分では、上記のような対応は、各チームでも簡単に取り入れられると思いますので、CK、FK、スローインなどを選手と一緒に戦術を考えてみてはどうでしょうか？



選手が発表している様子



3つのテーマごとに時間を分けてミーティングを行いました。

(3) ゴールを奪う

シンプルに縦方向の攻撃をすることをチーム全体のテーマとし、相手の状況に応じた攻撃の優先順位をつけ、パスの出し手、受け手がそれぞれの役割を果たすこととしました。

また、すべての選手が関わりを持つことを徹底させ、攻撃の中でも逆襲に備える中間ポジションの選手、カウンターに備える選手など攻撃の中でも守備のリスク管理を考えたポジショニングを指示しました。

ミーティングでは、選手からもゴール前でのスペースの作り方や相手を崩すオフの選手の動きなどアイデアがでるので、選手個々に試合での攻撃イメージを持てていることに成長を感じました。

全試合を通じ、防戦一方となることもなく、相手ゴール前での展開ができていたことは選手がチームテーマに沿って意識あわせができていたものと思います。

精度を上げていくためには、

①ボール保持者と受け手のコミュニケーションのタイミングをはかる。

言葉にすると簡単ですが、前回の十勝遠征での課題にあったように、オフの動き（ボールを持っていないときの動き）が非常に重要で、ボールの受け手になる選手が、相手の裏をとる。相手のマークを引きはがす。相手DFのポジションを変えさせる。などのアクションのタイミングとボールを受けるための動き出しのタイミングをはかりながら、味方ボール保持者とコミュニケーションをとるタイミングをはかるのですから、当然、ボール保持者もボールを出せる状態をいち早く作り出す、顔をあげるなどコミュニケーションのタイミングをとるシグナルを送るなど、非常に難しい要素がたくさんあります。

このため、攻撃の優先順位を決めておくことが大切で味方同士のプレーの予測がつけやすくなります。

②攻撃の場所とパスコースを増やす。

根室トレセンU-12は3-3-1のフォーメーションです。ワントップだけで相手を崩すことは難しいため、両サイドの選手が前線にでたり、サイドからの攻撃を行ったり、DF選手がオーバーラップするなど、攻撃では3-3-1にこだわらない動きが必要になります。

シンプルな縦攻撃を行うためには、前線でいかに攻撃場所となるパスコースを多く作れるかがポイントになります。

今回の大会では、浮いたボールで相手の裏をとることも選択肢の一つとしました。

平面的な考えだけでは、なかなか相手を崩すことが難しいためです。

③シュート、ドリブル、パスの選択

①、②の意識ができてくると、常にパスコースを探す選手が増えてきました。

シュートが打てる場所でパスを選択したり、相手一人をかわせばゴールを目指すことができるのに仕掛けずに横方向や後ろ方向にパスを出してしまうなど、ゴールを奪うためのプレーとしてはネガティブなプレーの選択だと思えます。

ボールを失わず、ポゼッションすることは良いことですが、ポゼッションを目的とするのではなく、もっともっと積極的に仕掛け、ゴールを目指すプレーを見せてほしいと思います。

得点をあげることもでき、ドリブル突破もでき、多彩なパスも出せ、しっかりとディフェンスができる選手を育てなければ、北海道代表選手を輩出することはできません。

(1)～(3)について、選手個々の状況をみながら課題を持つ。課題に取り組む。改善・発展につなげるよう、テーマを変えず取り組んでいます。

最後に・・・

選手にたくさんのことを考えながら、選択肢を持ってプレーしてほしいと思っています。

トレセン活動の中でどれだけ定着するか難しいところですが、最近の根室4種の大会等で各チームの試合ぶりをみていると、指導のポイントや戦術などがわかるチームが増えてきていると思います。

選手と指導者の考えが一つになって戦っている姿ではないでしょうか！

菅原は、今年度初めてトレセンレポートを書いたので、トレセンの指導者がどのようなことを選手に伝えようとしているかも含め、本大会の様子を書かせてもらいました。

保護者のみなさん、各チームの指導者のみなさんと根室トレセンU-12の活動について情報を共有していきたいと考えておりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いします。

大会運営をしていただいた、網走地区トレセンのスタッフのみなさん、道東ブロックのトレセン関係者のみなさんに感謝申し上げます。